

赤煉瓦夜話78夜「福博のカフェ談義」講師：中村好忠(カフェ・ブラジレイロ店主)

期日：11月15日(木)19:00～20:00

会場：カフェ・ブラジレイロ(福岡市博多区店屋町1-20)

定員：30名(要事前申し込み・定員を超えた場合抽選)

申込締切：11月6日(火)必着

文学講座「『こをろ』と矢山哲治」講師：近藤洋太(詩人・文芸評論家)

期日：11月17日(土)14:00～15:30

会場：福岡市総合図書館3階会議室

定員：50名(先着順・申し込み不要)

ギャラリー・トーク(学芸員による展示解説)

期日：11月24日(土)、12月8日(土)14:00～14:30

会場：総合図書館1階ギャラリー

定員：10名(先着順・申し込み不要)

[申込方法]

イベントは、赤煉瓦夜話のみ事前の申し込みが必要です。電話、ファックス、Emailにて、1)氏名 2)郵便番号 3)住所 4)電話番号を明記のうえ、下記宛先までお申し込みください。応募多数の場合、抽選となります。なお、78夜は館外会場での開催となりますので、ご注意ください。

[宛先]

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1

福岡市総合図書館文学・文書課 「赤煉瓦夜話78夜」係

TEL 092-852-0606 FAX 092-852-0609

Email library-bungaku.BES@city.fukuoka.lg.jp

平成30年度福岡市文学館企画展

青春の光芒—矢山哲治と文芸雑誌「こをろ」

2018年11月9日(金)から12月16日(日)まで

福岡市総合図書館 1階ギャラリー

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1

観覧時間 10時～19時(日曜・祝日は18時まで)

休館日 日曜日、11月30日(金)

観覧料 無料

主催 福岡市文学館

(福岡市文学振興事業実行委員会・福岡市教育委員会)

後援 (公財)福岡市文化芸術振興財団



※西鉄バス「福岡タワー南口」「博物館北口」

「博物館南口」下車徒歩5分

※地下鉄「西新駅」下車徒歩20分



美しいひとは。自分で奪はれていったのだ。  
すべての日の終りに。始めに。

「樞」 矢山哲治



平成30年度福岡市文学館企画展

青春の光芒

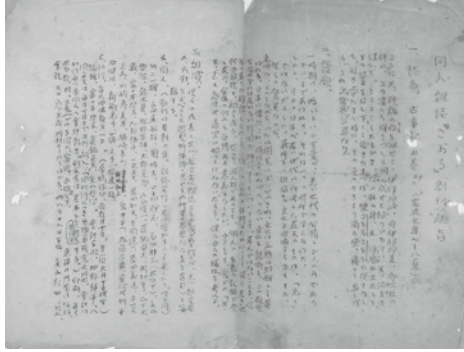
Light of the Youth

Tetsuji Yayama and  
Literary Magazine "Koworo"

矢山哲治と  
文芸雑誌「こをろ」

矢山哲治 (ややま・てつじ)  
大正7.4.28-昭和18.1.29

詩人。福岡市中石堂町生まれ。福岡県立中学修猷館から旧制福岡高等学校理科甲類、九州帝国大学農学部に進学。昭和14年、文芸雑誌「こおろ」を創刊。17年に陸軍に入隊するも病のため現役免除され、失意の中、精神を病む。18年に西鉄大牟田線の無人踏切で、上り電車に轢かれて死去。自殺か事故か現在に至るまで不明。享年24。詩集に『くんしやう』『友達』『柩』がある。



同人雑誌「こおろ」創刊趣意書



詩集「友達」矢山哲治



下から「こおろ」創刊号、2号、3号  
「こおろ」14号、13号(矢山哲治追悼号)、14号(終刊号)

こおろ。この言葉を愛することから、この言葉を呼ぶことに例へなく雄大なそして典雅な誇りで胸を溢れさせることから、僕らの新しい日の雑誌は出発する。  
(「創刊のことば」)

私達はこをろといふ一つの場を得て、今日の現実をより確認し、敢然とする者であること。さうして、こをろによつて、より多くの私達の世代、青春を、私達が急ぎ、闘ひつゝある場に招待しようといふ、聞いたところでは無暴な野心、試み、これが私達のこをろの唯一の存在理由だと信じて居ります。(中略) 私達は、こをろであり、友達であります。  
(「私信―こをろを読んで下さる方に」 矢山哲治)

文芸雑誌「こをろ」(創刊号から3号まで「こおろ」は、福岡の街で昭和14年10月に創刊された学生たちによる同人誌です。誌名は、「古事記」の伊弉那岐ノ命と伊弉那美ノ命の國産み神話の音「こをろ」に由来しています。

学生時代より文芸雑誌に作品を投稿し、「九州文学」の最年少詩人として活躍するなど将来を嘱望される詩人の一人だった矢山哲治(大正7・昭和18)が雑誌の中心的存在となり、苛酷な時代の制約のもと、検閲や解散・再建など紆余曲折を経ながら発行を継続しましたが、昭和18年1月29日、その矢山が24歳の若さで西鉄大牟田線の無人踏切で電車に轢かれて亡くなったことにより、14号を昭和19年4月に発行して終焉を迎えます。

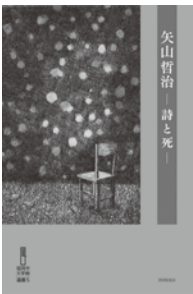
僅か4年6ヶ月の間に世に送り出された雑誌や書籍、本誌の発行とは別に同人「友達」の間で盛んに交わされた批評回覧プリント「こをろ通信」や矢山から「友達」に送られたおびただしい数の書簡は、彼らが雑誌にかけた情熱の強さを伝えます。

戦後、「こをろ」からは、眞鍋吳夫、島尾敏雄、阿川弘之、一丸章、小島直記、那珂太郎といった文学者が輩出されています。彼らの戦後の仕事の中にも「こをろ」は、光芒を曳いています。

暗い時代を彼らはどう生き、駆け抜けたのか――。矢山哲治生誕100年となる本年、戦時下の福岡で育まれた文芸雑誌「こをろ」の青春の軌跡を辿ります。どうぞぜひ高覧ください。

福岡市文学館選書5刊行

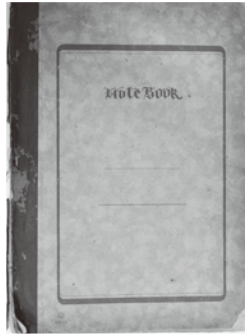
福岡市文学館選書  
福岡ゆかりの文学で、絶版や未刊行により、現在読むことが難しい作品について、福岡市文学館が選び、発行します。



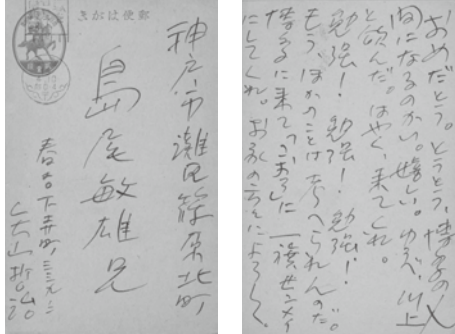
福岡市文学館選書5  
『矢山哲治-詩と死』

矢山哲治が生前残した3冊の詩集ほか未完詩篇や随筆、小説などの創作と「こをろ」同人による随想を収録。解説、近藤洋太(詩人・文芸評論家)。

四六判/336頁/定価1,600円+税  
制作・発売 書肆侃侃房



矢山哲治遺筆ノート



矢山哲治 島尾敏雄宛葉書(昭15年4月10日消印)